

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 保健医療学部看護学科
名 前 塚原 ゆかり
作成日 2023年9月14日

1. 教育の責任

本学看護学科の学生は卒後看護職に就く。在宅看護論は統合分野の一科目であったが、2022年カリキュラム改訂後、在宅看護論は専門分野に位置づけられた上で、地域・在宅看護論と名称が変わり、療養者を含めた地域で暮らす人びとと家族の理解と、地域における多様な看護の基礎を学ぶことが明確化された。現在、カリキュラムの移行期であり、旧カリキュラムにおいては、「在宅看護学概論」、「在宅看護方法論Ⅰ」、「在宅看護方法論Ⅱ」、「在宅看護学実習」と1～3年次まで積み上げを意識した構成になっている。新カリキュラムにおいては、移行段階で在宅看護方法論が専門科目としてあるが、他の科目においては横断的な科目であり、協力をしながら、準備、授業展開を目指している。

私の職位は講師であり、在宅における療養者を含めた地域で暮らす人びとと家族の理解、多職種連携のあり方等、在宅看護学の理解を深められるよう指導していく責務がある。私は2015年から湘南医療大学に所属し、2016年から在宅看護学領域の在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ、在宅看護学実習、統合実習の2～4年次までの科目を担当している。また、4年次選択科目である実践看護論Ⅵ(補完療法とフットケア)を担当し、健康上の課題に折り合いをつけながら、生活する人々の安寧を高める援助を指導していく責務がある。新カリキュラムにおいては、「看護基盤実習Ⅰ」、「ナーシングスキル学Ⅱ」の演習を担い、看護基礎教育における土台づくりを助ける責務がある。

学年	科目名	内容
2年次	在宅看護方法論Ⅰ (必修)	訪問看護活動に必要な在宅看護や在宅医療技術について最新の知識、技術を学び、実践力を養う。また療養者の在宅生活の実際を知り、個別性の高い在宅生活の状況に応じた療養者および家族・介護者への訪問看護支援の多様性を理解する。
3年次	在宅看護方法論Ⅱ (必修)	既修の各看護専門領域での学修を統合して再度学修する。的確な情報収集とアセスメントを通して、誰もが確実に実践できる具体的な看護過程を在宅の場で展開することによって、在宅看護実践力の基礎を身につける。
3年次	在宅看護学実習 (必修)	在宅療養者とその家族に対する看護実践を通し、対象者の価値観や生活を尊重した看護過程を学修する。在宅療養者を中心とする保健・医療・福祉などの多職種が連携し、地域包括ケアシステムの中のチームケアを理解し、地域において活動する看護職の機能と役割を学修する。

4 年次	実践看護論Ⅵ(旧; 在宅看護方法論Ⅲ) (選択)	看護の対象となる人をより統合的(ホリスティック)に捉え、健康な人から健康に障害を持つ人が自身のセルフコントロールにより個人の well-being(安寧)を高めるために役立つリラクゼーション技法を学ぶ。また健康上の課題に折り合いをつけながら生活する人の well-being(安寧)を高めるための援助技術としてアロマセラピー、手のケア、足のケア方法について学習する。
4 年次	統合実習(在宅看護) (必修)	これまでの既習学習を統合させ、看護の対象に看護理論および基礎看護技術等の学習内容を活用・提供することを学ぶ。具体的には外来、病棟での看護実践における看護管理者、チームリーダー、メンバーの役割とその実際を学習する。また、複数の患者を受け持ち、優先順位をつけて看護を実施する方法を学び、臨床現場で行われている看護実践の実際を学ぶ。またチームの一員として協働する心構えを学ぶ。さらに卒業や卒業後を視野に入れて、卒業までの基礎知識や看護技術における自己の学習課題を明確にする。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の理念は、自ら考え行動する力を持つることと、ケアリングの力の育成と向上である。

(1) 自ら考え行動する力を持つこと

学生が、自ら考え行動する力を持つよう場を整えることにある。

そして、その力を看護場面において、発揮できるようになることを目指している。そのために、学生の主体性の尊重と成長の機会の提供を心掛けている。また、学生の状況や特性に応じた支援を意識しながら関わっている。

(2) ケアリングの力の育成と向上

ケアリングの力を培っていくにあたって看護の実践においては、人を全人的に理解する必要性があり、看護師は意識的に心からその人を知ろうとする力が必要である。そのために、相手に興味関心を持ち、相手に対しての「気づき」が、重要と考える。特に、臨地実習において、その場でしか感じ取ることのできない感覚に意識を向けさせ、学生個々の「気づき」につなげられるよう取り組んでいる。その「気づき」から、患者、あるいは療養者、家族に対して、最適な看護のあり方を考えるプロセスを通し

て、対象者の価値観と経験に敬意を払うことで、対象者の力を引き出せる看護につながることを期待している。

2) 理念をもつに至った背景

これまで、主に訪問看護の中に、アロマセラピー、リフレクソロジー等の補完代替療法とドイツ式フットケアを取り入れ、より看護ケアの幅を広げ、質の向上を目指してきた。そこには、在宅で、療養者と家族がその人らしく生き、QOLの維持、向上のために、もっと看護師として何かできないか追求した結果、補完代替療法の一つであるアロマセラピーにたどり着いた経緯がある。アロマセラピーを取り入れた訪問看護を行い始めて20年近くになるが、その経験上、療養者や家族のQOLの維持、向上にアロマセラピーが役に立っているという確かな手ごたえを感じている。特に、アロマセラピーの実践方法の中でも、タッチングの要素のあるアロママッサージは症状緩和やリラクゼーションにつながるため、療養者にも家族にも、いい変化をもたらしやすい傾向にあった。治療の限界にいたりやすい終末期のがん等において、このようなアロママッサージを取り入れた看護ケアは、看護師だからできることだと思われる。

よって、このような経験から、対象者の多様な個別性を鑑み、その人らしく生きていくために、対象者の持っている力をより向上させるために何ができるか探求していく姿勢が必要だと考えた。そのためには、気づくことと考えることは看護を行う上で重要と考えた。

3. 教育の方法・戦略

授業、チューター指導(授業以外の諸活動、自己研鑽含む)について述べる。

1) 授業

在宅看護学の授業がスムーズに行えるよう授業環境を整え、学生の学修意欲を高められるよう授業・実習準備を行い、授業・実習の展開を図る。また、「看護基盤実習Ⅰ」等においても、十分に実習準備を行い、実習の展開を図るよう努めている。

1) 在宅・公衆衛生看護実習室 日常生活動作実習室の備品、消耗品の管理、整理整頓を行い、円滑な授業準備、展開につながるよう取り組んでいる。

2) 在宅看護の授業・実習の準備等、領域会議等で確認しながら行い、授業・実習を他の教員と調和して協力するよう心掛けている

3) リアクションパーパー等から学生の意見を反映して授業を行い、質問等があれば、次回授業開始時に答えて、授業の振り返りにつなげて、興味関心を高める様意識している。

4) 実習施設において、実習における調整を指導者の方と十分行い、学生にとって最適な実習環境となるよう取り組んでいる。

5) 大学における看護教育の指導法や在宅看護に関連付けられるセミナーや学会に参加し、授業に役立てている

2) チューター指導

学生が看護師になるために、自ら考え、自ら行動ができる学生に育てるための動機付けができ、学ぶ姿勢のモチベーションの向上を図れるよう取り組んでいる。

- 1) チューター担当の教員とともに個人面談や必要時メール連絡を行い、学生との関係を築き、学修意欲の向上につなげている
- 2) 学生の健康状態を把握し、緊急時の対応も適切に行え、学生が安心して学べるようにしている
- 3) 国試対策は個々の学力に応じ、個々に適した学修指導を学生とともに考えながら行い、国試合格につなげる学修支援に関わっている
- 4) 卒後将来を見据え、個々に応じた就職支援、進学支援を行い、学生自身で考え決断できるよう情報提供を行っている
- 5) 面談時、学生の考えや感じたことを訊き、行動の理由を聞く。学生の考えや感じたことを否定するのではなく、学生自らが改善すべき点や補うべき点に気づけるよう意識して関わっている
- 6) 適切な学修方法が見出せるようコーチング、勉強法等のセミナーの参加と書籍の購入を行い、学生指導に活かすようにしている

4. 学習成果

学習成果として、授業評価を列挙する。残念ながら、2022年度在宅看護方法論Ⅰ、Ⅱにおいては、授業評価が反映されていないため割愛する。

・在宅看護学実習(2022年度)：

実習環境については、「臨地実習授業評価アンケート」の項目『実習環境は十分整っていた』【5点満点中4.72/94.4%】で、全実習の平均値【以下、同4.53/90.6%】を上回っていた。

・実践看護論Ⅵ(補完療法とフットケア)(2022年度)：

「授業評価アンケート」の各項目の得点は、5点満点中4.7～5.0点であり、看護学科における「授業評価アンケート」の各項目の平均得点は、5点満点中3.93～4.5点で全体的に高かった。

自由記載に、「ケアを直接指導してもらえた」とあり、演習の際、個々の状態に応じた適切な指導を意識的に行った成果と考える。

5. 改善のための努力

在宅看護学実習における指導体制は、「臨地実習授業評価アンケート」の項目『教員と指導者の連携』【4.34/86.8%】の結果から、施設に常駐できないことも影響していると考えられ、教員と指導者の連携の在り方について検討していく。まずは、適切に実習における説明を十分行い、ともに実習目標を達成できるよう連携を図っていく。

実践看護論VI(補完療法とフットケア)においては、学生が主体的に学ぶよう事前学習を課題とした。また、患者もしくは療養者および家族に対し、他者理解を要するため、まず自己理解から学びを広げていく展開で授業を行った。演習時、学生全員に個別指導を行うことで学習意欲の向上に努めた。また、学生が主体的に考えて行う演習となるようますます工夫していきたい。

6. 今後の目標

短期目標：(*達成時期)

- ・「在宅看護学実習」において、新たに加わった在宅看護学の他教員と協力体制を築ける様調整できる(1/31)
- ・授業評価において、4.5以上を目指す(3/31)
- ・新カリキュラムにおいて、次年度より開講する「在宅看護方法論」、「ナーシングプロセスⅡ」、「慢性期看護実習」の準備、調整を協力的に取り組み、最適な授業が開始できるよう、また展開できるよう準備していく(3/31)
- ・学生の主体的かつ能動的・自律性の育成を考慮した授業および国試対策が行える。特に学力低迷者への学修支援を果たし、休退学者の防止にもつなげる(3/22)

長期目標：

- ・旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行期であり、横断的な授業展開となっていくため、準備、調整を適切に行い、新カリキュラムの授業が円滑に動き出すよう組織の一員として考え取り組んでいく。
- ・知識技術は日進月歩していくため、先を見据えた情報の獲得を行い実践し、授業や学生指導に益々活かしていく。

【添付資料】

資料1:2022年度シラバス「在宅看護方法論Ⅰ」

資料2:2023年度シラバス「在宅看護方法論Ⅱ」「在宅看護学実習」「実践看護論VI」「統合実習」他

資料3:2022年度第2回臨地実習指導者会議資料

資料4:実習評価アンケート 2022年度「在宅看護学実習」

資料5:授業評価アンケート 2022年度「実践看護論VI」